

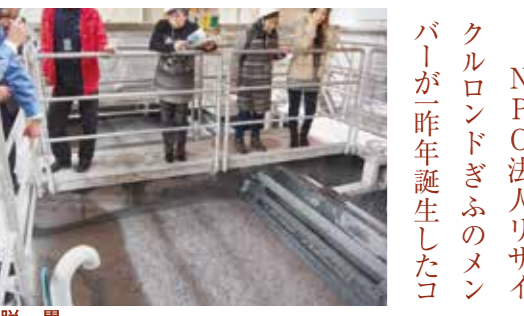
集合写真

「リサイクル Rondó 事業」を展開する、岐阜と長野の2つの地域ネットワークが、1月18日(水)

回収した紙パックは、コアレックス信栄が引き取り製品化されたトイレットペーパー等を福祉作業所が地域で販売しています。



紙パック他原料



脱墨

静岡県富士市のコアレックス信栄(株)を訪問、本社工場の見学と意見交換会を開催しました。2002年に「ぎふ」が21団体でスタートし、2年遅れて「ながの」61団体が取り組みを始めました。



ジャンボロール



抄紙

近年は両地区で年間約150〜160トンの紙パックが回収され、約150ケース以上のトイレットペーパー・ティッシュペーパーが販売されています。

また意見交換会では、回収や販売に関する課題等も直接製紙メーカーにお聞きいただき、さらには両組織の活動の経験交流をすることによって、今後に生かせる中身の濃い一日となりました。



意見交換会

Recycle Rondo

リサイクル Rondó コアレックス信栄工場見学と意見交換会を実施

集めて使うリサイクル協会では、エコ酒屋さんに向け情報をお届けする目的で「エコ酒屋通信」を不定期に発行しています。



新しいエコ酒屋向け酒パック再生商品が誕生しました



毎年酒パックリサイクルを各地で呼びかけ



ギフトボックス(2本用) 720g000ml用 1.8ℓ用各2色

個人経営のお酒屋さんでは店主の高齢化に加え、量販店・デイスカウント店の攻勢による客数の減少などもあり、経営不振と後継者不足による廃業店も年々増加しています。

私たちは、エコ酒屋さんの活動を応援しています。お客さんとの接点を生み出すコミュニケーションツールを提供すると同時に、店舗で活用できる酒パック再生品を開発しています。



兵庫県で小児遺棄相合が掲載展示



酒ギフトBOXカートン(再生商品)

酒パックには、中にアルミが付いたものとアルミ無しのもの2タイプがあります。近年はアルミ無しものが増えてきて



子供向け節句カルタ(再生商品)

おり50%以上を占めるようになってきています。素材的にはリサイクルルしやすくなつてきているのですが、まだまだ一般的には十分回収されているとは言い難い状況です。またリサイクルというのは回収から再生

品へという循環があつて初めて成り立つものであり、酒パックやアルミ付紙パックを原料にした再生品が生まれ、使用されるということがきわめて重要なことと言えます。

集めて使うリサイクル協会と酒造メーカーや容器メーカーで構成される酒パックリサイクル促進協議会で過去いくつかの再生品を誕生させています。それらをまとめて酒パックの再生品カタログを作りました。酒パック再生紙利用のヒントになれば幸いです。



酒パックミニ貯米箱(再生商品)

「エコ酒屋通信 春号」「酒パック再生商品カタログ」を発行



エコプロ2016「環境とエネルギーの未来展」出展

年末は活動の締めくくりとして、例年通り東京ビッグサイトで3日間開催される国内最大級の環境展「エコプロ2016」に出展しました。

今年で2002年から15年連続して参加していることとなります。

2009年からは印刷工業会との共同出展という形をとり2011年からはブースディスプレイを紙パック再生紙を利用した黒に統一。

ひととき目を引く出展小間でアルミ付紙パックリサイクルの情報を発信してきています。

ここでは印刷工業会液体カートン部会とともに進めているアルミ付飲料用紙パックリサイクルプロジェクト



トの活動を中心に、そのプロジェクトメンバーと関連して組織されている2つの団体「酒パックリサイクル促進協議会」と「L1紙パックリサイクル推進研究会」の活動を伝え、来場者に積極的にリサイクルを呼びかけました。

毎年恒例の配布物、酒パックミニチュア貯金箱は今年も好評で2日の予定配布数は午後



酒パックミニチュア貯金箱

エコプロ2016
「～環境とエネルギーの未来展～」出展
2016年12月8日(木)～10日(土)
会場 東京ビッグサイト

【来場者数】3日間合計167,093人(昨年度 169,118人)

早い時間になくなりまた特徴的な酒パックタワーを目印にブースを訪ねてくれるレギュラー来場者もいます。

企業の環境部署担当者や各地の自治体職員、NPOに学生など子供から高齢者まで幅



広い来場者がいる当催しは、われわれの活動の情報発信の場であると同時に、来場者から生の情報収集が出来る場でもあります。今後も継続して出展したいと考えています。



大好評です!!



エコプロキャラクター「エコよん」



酒パックリサイクル促進協議会

第28回情報交流会「水俣会議」および九州地区見学会

平成28年10月26日(水)酒パックリサイクル促進協議会の第28回情報交流会を、熊本県水俣市で開催しました。

熊本国税局ほか23団体企業43名の参加を得て、酒パックリサイクルに関する様々な取り組み報告や活発な意見交換を行いました。

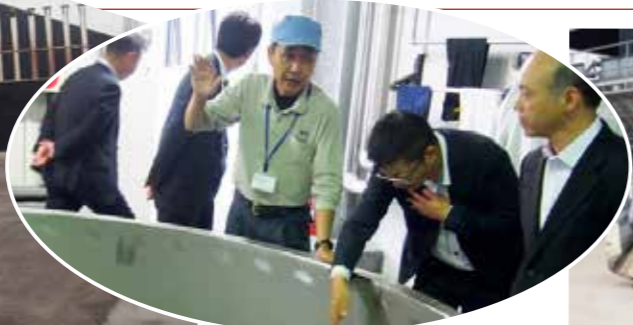
また講演者としてお招きした水俣市の中村環境政策室長には、「環境モデル都市水俣市の取り組み」と題してゼロウェイストの街づくりを目指す活動をご紹介いただきました。

田中商店

田中商店では、水俣エコタウンにある2箇所のリサイクル施設を見学。

古紙ヤードではプレスされストックされている回収された酒パックや、市民が直接資源物を入れに來られるよう設置された、分別資源ボックスの様子を見学。

またびんの洗浄工程などびん商としての作業を見学しました。



大口酒造

伊佐盆地の中にある大口酒造では、サツマイモを原料として恵まれた自然環境の中で生み出される焼酎「伊佐錦」の製造工程を見学。

パック詰めを行う本社工場で行われている、紙パックリサイクルのためにキャップ部分と底部分を切断する独自の取り組み等をご紹介いただきました。

第28回 酒パックリサイクル促進協議会 (水俣会場)



さらに翌日の27日(木)は、酒促進協メンバー34名が参加して熊本県水俣市のびん商「田中商店」と鹿児島県伊佐市の焼酎メーカー「大口酒造」を見学しました。

